

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520374

研究課題名(和文) 20世紀初頭のフランス文芸思潮におけるモダニズムの形成と展開に関する実証的研究

研究課題名(英文) An Empirical Study on the Formation and Development of modernism in literary movements and trends of the early 20th century in France

研究代表者

伊勢 晃 (ISE, AKIRA)

同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授

研究者番号：00379059

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：我々はベル・エポック期におけるフランスの文学思潮について、基礎的資料を収集、調査し、研究環境の整備につとめながら、当時の文芸評論の翻訳、校注作業を行うことを目標とした。その結果として、一次的資料の収集と分析、主にアポリネールによる文芸評論の翻訳についてはほぼ終えることができた。また、2014年12月にパリ第十大学教授Laurence Campa氏を京都に招聘し、講演会と研究会を開催することによって、本研究の意義を広く社会に向けて公表するとともに、フランスの研究者との一層の協力関係を構築した。

研究成果の概要(英文)：We aimed at clarifying literary trends in the beginning of the 20th century in France and translating literary criticisms in this period, with accumulating referential material so as to make it suitable for this study of French modernism. As a result, we have almost finished translating work and collecting basic materials. In December 2014, we invited Laurence Campa, professor in University of Paris X to Kyoto and organised conferences and seminars for the purpose of announcing the significance of this study. Throughout this occasion, we could establish more collaborative relationships with French scholars.

研究分野：アポリネールと20世紀前衛芸術研究

キーワード：フランス20世紀文学 モダニズム アポリネール ベル・エポック 文芸評論

1. 研究開始当初の背景

本研究はベル・エポック期のフランスにおける文芸評論および文芸思潮に関わる諸言説を研究対象とし、当時の文壇のあり方を詳細に分析し、当時の社会・文化事象や諸外国の新しい文学・芸術運動の影響も考慮しながら、20世紀初頭のフランスにおける文学・芸術の潮流を実証的に明らかにすることを目的とするものである。

研究代表者の伊勢は、平成21年度から科学研究費補助金(基盤研究C)「アポリネールの文学批評から見たベル・エポック期におけるフランス・モダニズムの諸相」(課題番号21520325, 研究代表者 伊勢晃)と題して、アポリネールの文学批評と同時代の文壇の関係に関する基礎研究を進めるとともに、彼のすべての文学評論の翻訳作業を行ってきた。そして、アポリネールは無名、新進文学者の作品であっても積極的に評価し、常に当時の文学・芸術の状況における位置づけと、これから予想される歩みについて語っており、アポリネールの文学評論は当時の文壇について活写した貴重な証言になっていることを、この研究をとおして実証的に明らかにした。その過程で、20世紀初頭のフランス文学思潮を明確にするには、これまで取り上げられることのなかったような当時の群小作家や他の文芸評論家の言説に関する、より広範で組織的な調査が必要不可欠であり、この検証を行うことによって当時の文壇研究で欠落している部分を埋め合わせることが可能なのではないか、という認識と見通しを持つことになった。

本研究では、これまでの研究成果を発展させて、フランス本国でも十分に成されていない、ベル・エポック期におけるフランスの文芸思潮に関する基礎的資料を整備するとともに、新たに広く時代の文芸思潮に関する言説を対象とした基礎研究を、日仏の研究者チームで行うことにした。

2. 研究の目的

20世紀初頭から第一次世界大戦終結までの期間は、象徴主義的な価値が危機をむかえ、キュビズムや未来派、ダダイズムを経てシュルレアリスムに至るといふ、フランス文学・美術史上における激動の時代であった。数々の「主義」が生まれ、新しい芸術が抽象的に理論化される過程において、文学と美術は融合の度合いを深め、その垣根を超越したところで今までにない文芸・芸術思潮が構築されていく。詩人ギヨーム・アポリネールのいう「エスプリ・ヌーヴォー」は当時の時代精神を如実に反映したものであり、彼自身も若い無名の芸術家や群小詩人・作家などと交流し、新しい芸術運動の組織化を試みている。

本研究の目的は、文芸評論および文芸思潮に関わる諸言説を直接の研究対象とし、同時代の新しい文学風土を創出しながらも現在では忘却されている群小作家や詩人を視野

に入れつつ、ベル・エポック期におけるフランス・モダニズムの諸相を明らかにすることである。また、この研究成果を踏まえた上で、20世紀前半の文学思潮の地図を塗り替える下地を整えたと考えられる文学批評や評論の翻訳および詳細な校注、解説を作成することも企図している。

具体的には、当時の文壇の状況を、アポリネールを基本軸に置きながら、彼と同時代人との交流関係や当時の出版物などから明確にし、20世紀初頭のフランスの文芸思潮研究の新たな局面を提示するような研究成果を達成することを目指すものである。本研究により、ベル・エポック期におけるフランスの文芸思潮や文化事象に関する理解を深め、従来のモダニズム研究に新しい視点を獲得する機運を高めることができると考えている。

3. 研究の方法

文芸評論および文芸思潮に関わる諸言説を直接の研究対象とし、同時代の新しい文学風土を創出しながらも現在では忘却されている群小作家や詩人を視野に入れつつ、ベル・エポック期におけるフランス・モダニズムの諸相を明確にするという従来にないアプローチの構築による研究目標の完遂に向けて、本研究は日仏両国の研究者からなるチームを組織し、その3年間の研究期間を1年ごとに区切り、短期的計画を立てた。そしてそれぞれの期間で、本研究の目的を達成するために、以下のような研究方法をとることにした。

- (1) 研究環境の整備：フランスのベル・エポック期の文学批評テキストに関する資料調査を行い、書誌情報のデータベースを作成する。

- (2) フランスのベル・エポック期における文壇の状況調査：当時の雑誌や新聞、書籍などのうち関係するものを購入、複写、マイクロフィルムなどの形で入手する。

- (3) 先行研究調査：先行研究の徹底的な比較検討とデータの整備を行う。

- (4) 翻訳作業：アポリネールの文芸評論の全訳と校注作成を行う。

- (5) フランス本国の研究者との連携：フランス人研究者を招き、講演会やシンポジウムを企画・開催する。

このような活動を通して、ベル・エポック期の文芸評論に関する基礎的調査を終えることを到達目標とする。

4. 研究成果

我々は3年間の研究期間を、フランス本国でも十分に成されていないベル・エポック期におけるフランスの文学思潮について、基礎的資料を調査、整備するとともに、広く時代の文学思潮に関する言説を対象とした基礎研究の期間と考え、文献資料の収集や読解によって、研究環境の整備につとめるとともに、主にアポリネールの文芸評論の翻訳、校注作

業や論文を行ってきた。

その結果、研究代表者や分担者の勤務校での役職に関わる仕事が増大し、実施計画に遅延が生じたものの、一次的資料の収集と考察、評論の翻訳などについては、完成の目途が立ち、研究目標にほぼ到達することができた。また、研究環境の整備については、連携研究者であるパリ第三大学名誉教授 Daniel Delbreil 氏とパリ第十大学教授 Laurence Campa 氏のほか、新たにデスノス、プレヴェール研究者のパリ東マルヌ・ラ・ヴァレ大学准教授 Carole Aurouet 氏との意見交換を実施し、日仏二カ国間での研究体制を整えた。特に 2016, 17 年にフランスで開催される学会にて、本研究に関わる発表を行い、成果の一部を公表するという計画が立ち上がり、その具体化についての議論を開始した。上述のとおり、精力的に資料を収集した結果、国内におけるベル・エポック期文学批評研究の環境を整えることができたが、まだ未入手・未確認の資料もあり、入手の方法と関連資料の発見、検討が課題として残っている。

具体的には、我々は以下のような調査研究と研究環境の整備を行った。

- (1) Guillaume Apollinaire Pléiade 版 Tome III *Les Diables amoureux* の翻訳
- (2) 当時の女流作家についての資料収集と文壇における位置づけに関する考察
- (3) 現地研究者（連携研究者 Daniel Delbreil パリ第三大学名誉教授と Laurence Campa パリ第十大学教授）との校注作成に関する意見交換と共同研究
- (4) フランスの文学雑誌 *L'Europe* への投稿
- (5) パリ東マルヌ・ラ・ヴァレ大学准教授 Carole Aurouet 氏との連携によるベル・エポック期以降の文学・芸術の傾向に関する研究
- (6) 関連分野に関する基礎資料の収集、特に文芸雑誌の収集とデータベースの作成
- (7) 研究成果の公開（論文、セミナー、公開講座）

研究実績の特筆すべき点として、2014 年 12 月に共同研究者であるパリ第十大学教授 Laurence Campa 氏を約 2 週間京都に招聘し、数回にわたる講演会と研究会を開催することによって、特に第一次世界大戦時の文学の傾向まで考察範囲を広げる視野を獲得しただけでなく、本研究の意義を広く社会に向けて公表したことがあげられる。フランス本国の研究者とのネットワークを拡張し、協力関係を深めることにより、日仏の共同研究体制も整備できたと考える。また、アポリネール没後 100 年を迎える 2018 年に、アポリネールのすべての文学評論・美術評論の翻訳を上梓することを企画し、現在作業を進めている。これらの翻訳には詳細な校注と解説を加え

ることにしており、今回の研究成果が直接寄与することになる。

今後はベル・エポック期の文芸思潮に関する本研究を、同時代の芸術思潮にまで対象を拡大し、19世紀末から20世紀初頭のフランスにおける「エスプリ・ヌーヴォー」の諸相を実証的に解明することを目的とする。平成27年度～29年度科学研究費補助金研究(基盤研究C)「雑誌・新聞に見るベル・エポック期「エスプリ・ヌーヴォー」の諸相に関する総合的研究」(課題番号:15K02394, 研究代表者:伊勢晃)に研究を引き継ぎ、調査研究の一層の精度向上と国内外における成果公表に努めたい。そして、従来のモダニズム研究に新しい視点を獲得する機運を高めるような研究を継続したいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

伊藤洋司, 分身とその宿命 - ジャック・ベッケル『偽れる装い』-, 中央評論(中央大学出版会), 査読無, 66-1, 2014, pp.43-50.

伊勢 晃, アポリネールの女流文学批評(2) 《vrai》と《faux》の観点からの考察, 年報フランス研究(関西学院大学フランス学会), 査読有, 47, 2013, pp.49-59.

佐藤文郎, アポリネールの美術評論に見る 1900年代のアカデミズムの位置づけ, 紀要(京都嵯峨芸術大学), 査読無, 38号, 2013, pp.13-22.

伊勢 晃, アポリネールの女流文学批評(1) ルイーズ・ランヌと雑誌 *Les Marges*, 年報フランス研究(関西学院大学フランス学会), 査読有, 46, 2012, pp.21-32.

〔学会発表〕(計2件)

伊勢 晃, アポリネールとピカレスク文学 - 芸術家肌の悪党(ピカロ)ドルムザン男爵, 日仏文化講座, 2013年11月26日神戸国際会館.

伊藤洋司, いかにしてフランス映画を教えるか? 方法論的エスキス, 日本フランス語フランス文学会 2012年度春季大会, 2012年6月3日, 東京大学本郷キャンパス.

〔図書〕(計3件)

伊藤洋司, エタンチエ, ギヨーム・ブラック『やさしい人』, 2014, pp.14-20.

伊藤洋司, 中央大学出版部, アップデートされる芸術 映画, オペラ, 文学, 2014,

pp.133-143.

伊藤洋司,佐藤文郎 他,丸善出版,フランス文化事典, 2012, 800 頁.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

該当なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

伊勢 晃 (ISE AKIRA)

同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授

研究者番号:00379059

(2)研究分担者

佐藤文郎 (SATO FUMIRO)

京都嵯峨芸術大学・芸術学部・教授

研究者番号:30434773

伊藤洋司 (ITO YOJI)

中央大学・経済学部・教授

研究者番号:10384728

森田いく子 (MORITA IKUKO)

京都嵯峨芸術大学・芸術学部・講師

研究者番号:50460697

(H25-26)

三好郁朗 (MIYOSHI IKUO)

京都嵯峨芸術大学・芸術学部・教授

研究者番号:60047165

(H24)